

かながわ2022年県政重大ニュース

※項目は、1月から順番に記載しています。

「自主療養届出制度」が本県の医療ひっ迫回避に貢献！ (1月～9月)

新型コロナの感染拡大に伴い、外来受診のひっ迫を回避することを目的として、まん延防止等重点措置期間にあった1月、セルフテストで陽性であれば医療機関を受診せず自宅で療養することができる「自主療養届出制度」を導入しました。

この制度は、第7波でさらに利用が進み、累計で21万人もの県民の方々にご利用いただくことになり、本県の医療ひっ迫の回避に大きく貢献しました。



初の「電力需給ひっ迫警報」と「電力需給ひっ迫注意報」 発令 県民・事業者の節電協力や揚水発電が電力の安定 供給に貢献！（3月・6月～9月）

初めての発令となった、3月の「電力需給ひっ迫警報」、6月の「電力需給ひっ迫注意報」を受け、知事による動画メッセージや1都8県テレビ会議の共同メッセージ等により、県民や事業者の方に節電の協力を呼び掛けました。

また、県では、東京電力からの発電要請に基づき、電力需給ひっ迫を回避すべく、公営企業として全国唯一の揚水発電所である城山発電所を稼働させ、電力の安定供給に大きく貢献しました。

※ 揚水発電…余剰電力でポンプをまわして水をくみ上げ、
電気が必要な時に水を落とし発電するものです。



ウクライナから避難された方々への支援を実施！ (3月～)

ロシアによるウクライナへの軍事侵攻の直後の3月、ウクライナからの避難民への支援を進めるため、いち早く全庁横断的な支援体制を整えました。その後も市町村や支援団体等とも連携して支援に取り組んでいます。

また、県庁舎等に募金箱を228か所に設置したほか（募金額は約687万円（12月14日現在））、5月には、ウクライナやポーランド出身のソリストと神奈川フィルハーモニー管弦楽団の演奏による、チャリティー・コンサートを開催しました。コンサートには、避難民の皆様やウクライナ、ポーランド両国の特命全権大使にもお越しいただきました（寄附金総額約1,744万円）。



神奈川県リハビリテーション病院に「筋電義手バンク」を設置！（4月～）

神奈川県リハビリテーション病院の「未来筋電義手センター」では、筋電義手の普及を促進する取組を進めるとともに、筋電義手を利用するための訓練等を実施しています。より多くの方が訓練を行うためには、筋電義手の確保が必要であるため、センターでは「筋電義手バンク」を設置しています。多くの方の協力をいただき、寄附総額は12月14日時点で約1,421万円となりました。

※ 筋電義手…腕の筋肉が収縮する際に発生する微弱な電流に反応して、自分の意志で手を動かせる機能を有した義手です。



大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）を契機としたプロモーションを実施！（4月～）

大河ドラマ「鎌倉殿の13人」（NHK）の放送を契機に、鎌倉時代「ゆかりの地」を掲載した周遊MAP・デジタルマップを作成しました。さらに、8月からはスマートフォンで参加するスタンプラリー「いざ、神奈川！デジタルラリー」を開催しました。

こうしたプロモーションが功を奏し、多くの方が神奈川県を周遊いただくことにつながりました。また、鎌倉市に開設された「鎌倉殿の13人 大河ドラマ館」にも25万人を超える方々が訪れました。



鎌倉市観光協会オリジナルキャラクター

「ベトナムフェスタ in 神奈川2022」と「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2022」を3年ぶりに開催！（9月、11月）

ベトナムと神奈川県との交流をより一層深めるため、9月に「ベトナムフェスタ in 神奈川2022」を開催しました。「未来へつなぐ 神奈川ーベトナム」をテーマに、伝統芸能・水上人形劇やベトナムの歌や踊りのパフォーマンスなどが行われ、約18万人もの方々に来場いただき大変な盛り上がりを見せました。

また、ベトナムでは11月、「KANAGAWA FESTIVAL in HANOI 2022」を開催し、約8万人もの方々に来場いただきました。小田原ゆかりの風魔忍者やよさこいの演舞など、両地域のつながりや魅力を感じられるプログラムを実施しました。



県立図書館の新しい本館がオープン！（9月）

「価値を創造する図書館」として、9月に県立図書館の新しい本館が開館しました。多様な読書エリアやライブラリーショップなどを新たに設置するとともに、「Lib活」など新たな取組を展開し、本を介して人と人が出会い学びあう、生涯学習の拠点として、県民の学びを支えていきます。



神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例

～ともに生きる社会を目指して～ を制定！（10月）

オール神奈川で当事者目線の障がい福祉を進めていくための基本的な規範となる「神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を制定しました(令和5年4月1日施行)。

また、条例の内容を広く県民全体で共有するため、障がい当事者の皆さんが中心となって考え、議論しながら、条例のわかりやすい版「みんなで読める神奈川県当事者目線の障害福祉推進条例～ともに生きる社会を目指して～」を作成しました。



県内初開催！ねんりんピックかながわ2022（11月）

高齢者を中心としたスポーツと文化、健康、福祉の総合的な祭典である「ねんりんピック」を開催しました。横浜アリーナで実施された総合開会式では全国から選手・監督等1万人を超える参加がありました。また、過去最多となる32種目のスポーツや文化の交流大会が各市町で開催され、山下公園周辺では、ねんりんピックかながわ2022スマイリングフェスタを開催し、地域や世代を超えた交流の輪が県内各地に広がりました。



国際シンポジウムME-BYOサミット神奈川2022開催！

（11月）

未病コンセプトや未病改善の重要性を発信し、今後の展開について議論する「国際シンポジウムME-BYOサミット神奈川2022」を開催しました。「Vibrant” INOCHI” の地域社会への展開」をテーマに、WHOやスタンフォード大学など海外からの著名な研究者等をはじめ、産学公の関係者が一堂に会し、地域の健康課題の解決に向けて、データの利活用や女性の健康課題、健康経営、最先端技術など様々な視点から議論を行いました。

